

測量に携わる皆様へ

TP ホールディングスグループがお届けする特別講演

特別  
講演

# 「地形画像診断の最前線と 地図情報のDX化」

## TP ホールディングスグループ特別講演について

今や毎年、日本全国で今まで経験したことのないような大きな災害が発生して、尊い命や貴重な財産が失われています。

当講演では、数々の災害現場で、被害調査や原因分析を行ってこられた原口教授をお招きして、災害発生時におけるオープンデータの活用と、ドローンによる 3D 点群データを活用した地形画像診断について、地域に密着されている測量業界の方々が取り組むべき課題に関する特別講演を開催いたします。

測量業界における  
オープンデータの活用と  
DX への取り組み

■ 講師

原口 強 氏

東北大学災害科学国際研究所特任教授



■ 開催日時

2022 年 6 月 14 日 (火)  
12:15 ~ 13:00

参加費  
無料

■ 会場

金沢流通会館 4F 第1研修室

■ 講師紹介

原口 強

東北大学災害科学国際研究所特任教授、  
中央大学機構教授、大阪公立大学客員准教授、工学博士

専門分野：

地質工学、自然災害科学、環境考古学、第四紀地質学

## 特別講演の概要

地震、津波、洪水といった自然現象そのものでは、人が危険にさらされることはありません。けれども、そこに人が住んでいるから災害となります。人には、目・耳・鼻・舌・皮膚の五官を通じ危険を避ける本能が備わっています。災害に巻き込まれないためには、そのハザードが目に見えること、可視化が最も有効です。山は樹木、森林などで覆われ、本来の形を見ることができませんが、UAV LIDAR システムの力を借りれば、シームレスに可視化できます。

昨年発生した熱海土石流災害においては、オープンデータの活用と情報共有により、崩壊地の盛土を短時間で特定しました。多くの人々が暮らす沿岸域・河川域・山麓斜面域の地形を詳細に計測することで、そこに潜むハザードの可視化と診断を行い、地域に合った処方箋を提案することで、自然災害から人々の暮らしを護り、安全で豊かな国土づくりに寄与することが、私たちの使命です。

災害を未然に防ぐには、住民が自分の住む土地の災害リスクを理解できること、災害発生時の速やかな対応ができること、地域における地図情報の DX 化は喫緊の課題となります。オープンデータの利活用による防災分野での DX 改革、住民の方には、わかりやすく地域の危険度を認知していただき、地図情報の一元化をする事により自治体職員の方には担当地域の特性を把握し、災害に備える情報や災害発生時の素早い対応が必要となります。現実的に、国や自治体が公開しているオープンデータを個別に閲覧できる・複数の地図の相互の関係を、見るシステムが必要になります。それらの地図情報から学術的知見と実績により解析し、その地区の危険度の診断も可能となります。言い換えれば、皆さんが定期的に行われる健康診断が航空レーザー測量であり、CT や MRI などの精密検査が地元の測量会社の皆さんが行う UAV レーザー測量にあたります。それを最終的に診断し予防に役立てるのが、私たちの役目となります。

当講演へのご参加お申込みは、こちら

<http://www.trimble-h.co.jp/fair-application/>

QRコードからもアクセスできます →



ニコン・トリンプル

ジオスペシャルフェア 2022

【金沢会場】

6月14日(火) 12:15 ~ 17:00

金沢流通会館

トリンプルパートナーズ北陸株式会社